

京都府よろず支援拠点活用事例紹介

取材

京都府よろず支援拠点では、府内中小企業・小規模事業者のワンストップ相談窓口として広く経営相談に応じるため、関係機関等と連携して、課題分析、解決策の提示、フォローアップを行っています。今回、本拠点を活用して経営課題解決に取り組まれた企業事例をご紹介します。

世界に一つだけの子どもの絵を オーダーメイドでバッグ・雑貨に[リトルピカソ]

相談のきっかけ



当社は、「子どもは世界一のデザイナー」をコンセプトに、お客さまから注文を受けてお子さまの絵を生地にプリントし、オリジナルのバッグや雑貨を製作・販売しています。

起業のきっかけは、甥の描いた絵をプリントしたバッグを妹にプレゼントしたことで

代表者 手塚 隆子 氏 す。妹や甥はもちろん、家族や友人たちにも喜ばれ、「これには多くの人の心を動かす力がある」と実感。長くアパレル・服飾雑貨業界でマーチャンダイジングやデザインに携わり、在庫管理の難しさを感じたこともあり、完全受注製作の事業を思い立ちました。

起業にあたっては専門家のアドバイスをを受けたいと思い、「第8回京都女性起業家賞」に応募。その際、「京都府よろず支援拠点」を紹介いただき、相談することになりました。

支援内容

当社の特長は、既製品に絵をプリントするのではなく、生地作りから行うところです。これにより絵の魅力を最大限生かしながら、より高品質な商品を作ることができます。

「よろず支援拠点」では、知識・経験に富んだコーディネーターがどんな事業であっても可能性を見つけ、事業化を温かく支援してくださることに力づけられました。特にアドバイスを受けたのは、商品価格をいかに設定するかという点です。お客さま

が購入できる価格設定を見直すため、一から事業計画を見直し販売目標が明確になりました。

またWEBに長けた専門家を紹介いただき、SNSやプレスリリースを活用したPRを支援していただいたのも力になりました。加えて子どもの絵を使用することから懸念していた著作権侵害についても問題ないことを確認したり、ロゴデザインの商標権を取得したりと、知的財産に関しても専門的な見地からアドバイスをいただきました。

支援の成果

2020(令和2)年2月1日にオンラインショップをオープン。PR支援の効果もあって全国から注文を受け、順調に滑り出しました。バッグの他、お客さまのお手元で仕上げていただくチャームキットも好評です。

今後は、商品アイテムを増やす他、イベントへの出展やクラウドファンディングを活用した販売も計画しています。子どもの絵を作品にするという「体験と喜び」をより多くの人に広げていくことが目標です。



子どもの絵をプリントしたバッグ



子どもの絵をコラージュしたチャーム

Company Data

- 代 表 者/手塚 隆子
 - 事 業 内 容/服飾雑貨の製造販売
- <https://www.littlepicasso.jp/>



支援コーディネーター
古谷 武徳